

令和4年度 奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校定時制課程 学校評価総括表(年度末報告)

【高等学校用】

年度	令和4年度(中期計画1年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	少数者での学習を通して、工業や商業の専門分野に関する知識と技能を身に付け、自分の可能性を広げようとする生徒の育成
年度重点目標	新教育課程に対応する教材や観点別による評価の工夫、改善に努め、また、BYODによる一人一台端末を活用した効果的な学習方法について研究、実践し、生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に向かう態度を育成する。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	<p>本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 他者への思いやりの心を持ち、多様な仲間とともに学校生活を送りたい生徒 2 日々の授業を大切に、部活動や生徒会活動、学校行事にも積極的に取り組む意欲のある生徒 3 工業や商業に興味を持ち、自らの進路実現に向けて取り組む意欲のある生徒
教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	<p>本校では、確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と多様に化する社会に主体的に対応し得る能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の実態に合わせて教材を精選し、基礎学力を定着させ、真剣に学習に取り組む意欲と態度を育てます。 2 工業や商業に関する専門性を高め、実社会で通用する資質・能力の習得を図ります。 3 少数者のメリットを生かし、実習や資格試験ではマンツーマンに近い形で丁寧に指導します。 4 学校行事や生徒会活動を通して、共に成長できる環境づくりに努めます。
育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	<p>本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 多様な他者と協働し、互いに理解し、共に支え合うことを大切に行動できる。 2 社会で必要なルールやマナーを身に付け、地域社会や職場から信頼される。 3 基礎的・基本的な知識や技術を修得し幅広い分野で活躍することができる。 4 自分で課題を見つけ、それを解決し、将来にわたって学び続けることができる。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標 (評価規準 A:目標を大きく上回っている B:おおむね目標に達している C:目標に達していない)

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. ことごと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	基本的な生活習慣の確立	・年間遅刻回数の減少(前年度比-5%) ・進んで挨拶しようとする生徒の割合90%以上	・昨年度の総遅刻回数の-5%減 ・進んで挨拶しようとする生徒の割合80%以上	・遅刻は昨年度と比較して4%増加した。特定の生徒が仕事やアルバイトの終わる時間の兼ね合いでほぼ遅刻して登校してくることで、欠席の多い生徒に対しては登校を促すことを優先するため十分な遅刻指導ができていないこと等が原因と考えられる。 ・自分から進んで挨拶しようとしている(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は89%であった。	B	・夜間定時制の性質上、アルバイト等でやむを得ず遅れてくる場合もあるが、時間の大切さを理解させるためにも継続的に指導を続けてほしい。 ・食生活の大切さを理解している生徒は多いが、規則正しい食生活の習慣づけには至っていない。	・遅刻をしてくる生徒はほぼ常習化しており、その他の生徒の遅刻は少ない。個々に事情を抱えているため、指導しづらい面はあるが、少しでも改善されるよう継続して働きかけていきたい。 ・積極的に教員から生徒に挨拶するよう心がけることで、挨拶しやすい雰囲気を作る。
	運動に対する意識の向上	・体育の授業に意欲的に取り組む生徒の割合95%以上 ・運動が好きな生徒または定期的な運動習慣のある生徒の割合80%以上	・体育の授業に意欲的に取り組む生徒の割合85%以上 ・運動が好きな生徒または定期的な運動習慣のある生徒の割合70%以上	・授業アンケートで体育の授業に意欲的に取り組んでいる(よく当てはまる、やや当てはまる)と回答した生徒は89%であった。 ・運動することは好きである(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は77%であった。 ・定期的に運動する習慣がある(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は56%であった。	B		体育の授業や球技大会等を通じて運動することの楽しさ、大切さを理解させていく。
	望ましい食習慣の確立	・食生活の大切さを理解している生徒の割合80%以上 ・一日規則正しく3食食べる生徒の割合80%以上	・食生活の大切さを理解している生徒の割合70%以上 ・一日規則正しく3食食べる生徒の割合70%以上	・家庭科の授業や調理実習等とおして食生活の大切さを教えている。 ・食生活の大切さを理解している(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は89%であった。 ・規則正しく一日3食食べている(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は52%であった。	B		毎月発行している保健だより等も活用しながら、さらに食生活の大切さを呼びかけ、食生活の改善を促す。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業で興味・関心が高まると感じている生徒90%以上	授業で興味・関心が高まると感じている生徒80%以上	・わかりやすい授業が行われている、先生の指導は丁寧だ、学力向上を積極的に支援してくれる(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒はいずれも90%以上となっている。 ・対話的な活動をどのように取り入れてくかが今後の課題。	B	・授業に対する満足度は高く、きめ細かく指導していただいていることがうかがえる。更に生徒が主体となって学習活動を進めるために、ICTなどを積極的に活用してほしい。	自分の考えを声に出して伝えることが苦手な生徒が多いが、ICT機器を活用する等、自分の考えを表現できる方法を工夫する。
	ICTを活用した教育の推進	・ICTを活用した授業ができる教員の割合90%以上 ・ICTを活用して学習できると感じている生徒の割合90%以上	・ICTを活用した授業ができる教員の割合80%以上 ・ICTを活用して学習できると感じている生徒の割合80%以上	・教員については、授業にICTを活用して指導する能力を問う調査で、できる、ややできるという回答が75%であった。 ・生徒については、ICTを活用して学習できる(そう思う、だいたいそう思う)という回答が75%であった。 ・1学年でBYODが始まり、端末を積極的に活用して授業を進めようとしている教員もいるが、全体的な動きとはなっていない。	B		先行して取り組んでいる教員を講師とした研修会の実施を検討するなど、教員間の情報交換が活発に行われるようにする。
	交通安全・防犯・防災教育の推進	年間2回以上講演会や訓練等を実施	講演会や避難訓練を実施する。	・地震による停電・火災を想定し、照明を消して、発煙筒の煙の中で避難訓練を実施した。事後指導のためのHRを実施した。 ・交通安全、防犯についての講演会等は実施できなかった。 ・交通安全については学期ごとに自転車、単車の点検を行い生徒への意識付けはしている。	C		夜間定時制ということで外部講師を招聘しにくい面はあるが、生徒の意識を高められるよう実施方法を工夫する。

3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップ等の就労体験の充実	インターンシップをはじめ、在学中に就労を体験する生徒の割合80%以上	・在学中に就労を体験する生徒の割合70%以上	・在学中に仕事やアルバイト等の就業体験をしている生徒は72%であった。(本年度2月時点でアルバイトを含め就業している生徒は65%)	B	・外部講師を招いての講演など、生徒への意識付けを積極的に行っている。新しい取組である企業見学をより充実させて、職業に対する理解を深めてほしい。	就職については就労体験のある生徒の内定率が高いため、引き続きアルバイトやインターンシップへの参加を呼びかける。また、会社見学を次年度以降も実施し、就労に対する興味関心を喚起する。
	キャリア教育の推進	キャリアパスポートの活用率の向上	日々の活動による自分の変化や成長を感じている生徒の割合70%以上	・学期末にその学期を振り返り記録させている。 ・自分の変化や成長を感じている(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は72%であった。	B		キャリアパスポートの取組を継続していくことで、今後も生徒が自分の成長を感じ取る場面を作っていく。
	進路実現に向けた取組の推進	・進路に関する講演会等を年間3回以上開催 ・学校が進路実現を積極的に支援してくれると感じている生徒の割合95%以上	・進路に対する意識向上、社会人としてのマナー修得に向けた講演等を企画する。 ・学校が進路実現を積極的に支援してくれると感じている生徒の割合85%以上	・4年生対象の社会人としてのマナー講座、全生徒対象に企業の方を招いて就職に向けての講演会を実施した。また、1から3年を対象に職業選択に関する講演会を実施した。 ・希望者を対象に企業見学を実施し、3名の生徒がそれぞれ希望の企業を見学した。 ・学校は進路実現を積極的に支援してくれる(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は95%であった。	B		・就職先として最も多い製造業の方を招いて、業務等について説明していただけるよう計画する。 ・本年度は進路指導部が就職希望者向けに説明会を実施し、参加した生徒の就職活動が円滑に進んだため、次年度以降も続けていきたい。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」の学習成果の蓄積	郷土や地域に関する興味関心が高まったと感じている生徒70%以上	・「奈良TIME」は各教科科目に割り当てて実施しており、科目に応じた視点から奈良について学ぶ。 ・奈良の伝統、文化等への興味関心が高まった(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は64%であった。	C	・様々な制約がある中、実施内容を工夫することで、生徒が活動できる場を作ることができている。今後も地域の中で生徒が活躍できる活動を進めてほしい。 ・「奈良TIME」は一定の成果は出ていると思われる。さらに奈良を意識できるような取組が望まれる。	奈良についての学習であることを意識できていない生徒もいると思われるため、各教科科目で「奈良TIME」について意識させるようにする。
	地域との連携・協働の推進	コミュニティスクールの積極的な運営	コミュニティスクールでの意見を学校運営に反映させる。	・第1回の学校運営協議会で教員の働き方に関することや、コロナ禍における生徒の活動に関すること、専門高校の魅力発信に関すること等でご意見をいただいた。 ・職員の勤務時間についてこまめに管理し、超過勤務が増えないよう心掛けた。 ・球技大会や文化祭など実施方法を工夫しながら、生徒が活動できる場を設けることができた。	B		・時間外勤務が増えないよう、業務の精選を進める。 ・今後も感染対策を講じつつ、生徒の活動が活発に行われるよう行事を計画する。
	地域に貢献する人材の育成	通学路及び学校周辺の清掃活動等を年間3回以上実施	生徒会役員及び有志で各学期に1回、通学路等の清掃活動を実施する。	・本年度は2学期および3学期の2回、通学路の清掃を実施した。	B		生徒会役員が全校生徒に積極的に呼びかけるとともに各クラス担任からも声をかけてもらい有志を募ることで、活動を活性化する。
	一人一人の個性を認め合う生徒の育成	一人一人の個性を尊重することが大切であると感じる生徒の割合90%以上	一人一人の個性を尊重することが大切であると感じる生徒の割合80%以上	・生活体験発表会を実施、生徒一人一人の考えや思いについて知るきっかけとなるよう取り組んだ。 ・一人一人の個性を尊重することは大切(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は98%であった。	A		生活体験発表会が自分の生活や思いを振り返るとともに他の生徒の思いを知るきっかけとなるよう取組を継続させていく。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	学校いじめ防止基本方針に基づく取組の推進	学校は安心して居心地良く過ごせる場所であると感じている生徒の割合90%以上 いじめのアンケート等を年間2回以上実施	・学校は安心して居心地良く過ごせる場所であると感じている生徒の割合80%以上 ・いじめのアンケート等を年間2回以上実施	・学校は安心して過ごせる場所だ(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は91%であった。 ・学校は居心地良く過ごせる場所である(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は87%であった。 ・2回のアンケートの結果、いじめの事象は確認されなかった。	B	・生徒がお互いを思いやることのできるような取組が進められている。 ・生徒がこれからも安心して活動できるよう、様々なことに配慮した取組を期待する。	生徒がより安心して学校生活を送れるよう、少人数である利点を生かし、生徒へのきめ細かな対応や、見守りて、生徒の変化を見逃さないようにする。
	人権教育の推進	「人権教育推進プラン」に沿った取組の推進 人権講演会を年間1回以上、職員研修を年間1回以上開催	人権講演会や職員研修を年1回以上企画する。	・人権LHRでDVD教材を視聴させるとともに、事後指導としてワークシートに取り組ませた。担任対象の事前研修を実施した。 ・夏期休業中に「発達障害」についての教員研修を実施した。	B	・様々な視点で生徒を理解できるよう研修を企画する。 ・生徒の実態に応じて取り上げるテーマを考える。	

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

・生徒アンケートで本校に入学して良かった(そう思う、だいたいそう思う)という回答が94%であった。
・保護者アンケートで本校に入学させて良かった(そう思う、だいたいそう思う)という回答が96%であった。
・全体として目標値に近い状況になっており、生徒、保護者とも本校に対する満足度は比較的高い。これに安心することなく、今後も少人数のメリットを生かし、生徒のつまずきを把握し、個々に応じた学習指導を進めることで基礎学力の定着に努めるとともに、一人一人の生徒と向き合い見守ることで、より安心して学校生活を送れる環境づくりを目指す。
・お互いを思いやながら行動できる生徒の育成を目指し、学校行事や生徒会活動など、多様な他者と協働する機会を充実させていく。